

「豊かな心」という美しい花を咲かせてほしい

# 語りの会「こま草」



## MEMO

子どもたちの活字離れを心配し、昭和50年代に、語りの活動を始めたかたがたが中心となって、平成7年に改めて設立したボランティア団体。

子どもたちが読書を通じて豊かな心を育むことを願い活動を続け、今年20周年を迎えた。

「こま草」は厳しい環境でもひときわ美しい花を咲かせる高山植物。駒の里にちなんで名付けた。

明るく清々しい教育プラザの一室。物語を語る声が優しく響き、子どもたちが耳を澄ませて聞いています。

活字離れが心配される子どもたちにとって読書が身近なものになるようにと、平成7年に設立した「語りの会「こま草」」が、9月26日に活動20周年を記念したお話し会を開催しました。声だけで聴かせる「素話」のほか、紙芝居や手遊びなど多彩な演目を披露すると、子どもたちは興味津々。どんなお話しの世界に引き込まれていきました。題材も方言を生かした昔話から外国童話まで、子どもたちの糧になるよう配慮を尽くして選定し、お話し会は大盛況でした。

同会では日頃、図書館のほか、市内の保育園や小学校などで、年間200回を超えるお話し会を行っています。会長の阿部智留恵さんは「会員は皆、本が好きで、子どもが大好き。絶えず勉強しながら取り組んでいます」と苦勞をいとわない様子です。この度、高清水小学校の児童たちから、こま草20周年へのお手紙を頂いたそう。『毎月楽しみにしていますが、一番に残ったのは戦争の話です。当たり前のありがたみと、命の重みがわかりました』と、丁寧に綴られた手紙たちを大事そうに見せてくれました。

13人の会員が特技を生かして多様

な「語り」を披露しますが、重きを置くのは、絵などを見せずに静かに語る『ストーリーテリング』。「耳で聞くお話しから想像の翼を広げてほしい。そして、自ら本を手に取り、本を友にできるよう、お手伝いできれば」と、会員の皆さんが思いを込めます。

毎月第2・4土曜日に市民図書館で行うお話し会の名は「おなはしのゆうびんやさん」。会員が手を携えて届け続ける読書の種。子どもたちが育む、じっくりとしなやかな活動はこれからも続きます。



20周年記念お話し会の様子